

施設整備

施設整備が完了するまでは、大きく分けて『計画・設計・積算』、『工事・監督』の2つに分けられます。また、施設整備が完了した後は、「いつでも・どんな時でも」使えるように『維持・管理』をしています。

計画・設計・積算

実際に現地で測量したり、机上計算で条件の確認、地元や関係機関との調整をします。調査・計画で出した条件に合わせて、施設の条件を決め、適正な金額を計算します。



平成28年度入省
梅原 高仁

より正確に、確実に

工事を発注する際、何をどれだけ作るのかを設計し、それに必要な金額を計算します。入札や契約に関わってくる行程なので、ミスが無いように細心の注意を払いながら作業しています。今はわからないことは上司にすぐ相談していますが、経験を積み、自分でもしっかりと業務を行うことを目標に日々の業務に取り組んでいます。

発注契約

工事・監督

基準どおりに施工されているか、安全に対する配慮がなされているかを確認します。監督確認を怠ると運用時に障害が起きる危険性もあるので、厳しいチェックが入ります。



平成27年度入省
平野 見成

品質のよい施設をつくり上げるために

施設が完成するまでのスケジュールを確認し、工事着手に至るまでの事前調整を行ったり、現地にて発注した施設が設計通りできているか、また、安全に十分配慮し作業を行っているかを確認しています。施設が少しずつできていくことにやりがいを感じます。

更新・改良

完成



平成21年度入省
山下 裕也

適切な公共サービスの提供を実現するために

公共サービスの適切な提供を実現するため、点検・劣化診断等の状態の適切な分析、延命化・整備・更新のコストの算出・比較などを行い、総合的な評価を実施することにより効率的な資産管理を実施しています。

設備の性能、信頼性、延命化・整備・更新におけるコスト等を適切にマネジメントし効率的な資産管理を行っています。



道路情報表示装置のライフサイクル



平成28年度入省
和田 竜太郎

機器を問題なく使い続けるために

電気通信設備を問題なく使い続けるために私たちは、機器の維持・管理を行っています。情報表示装置やネットワーク設備等の重要な機器が問題なく動くように、もし異常がでたとしてもすぐに対処できるように管理を行っています。こうした管理には、幅広い知識が必要となりますので、毎日が勉強の日々です。

常に使える状態を長期間維持するため、定期点検を実施します。遠隔で施設の状態を常に監視しています。



アセットマネジメント

老朽化

維持・管理・運用